

【研究報告書】

「県内企業・事業所の青少年の健全育成に関する意識調査」

～求められる青少年活動のこれから～

2014年度（公財）兵庫県青少年本部補助事業

兵庫県青少年団体連絡協議会 調査研究委員会
2015年3月

目 次

はじめに	1 - 2
企業のCSR(社会貢献)活動について	3 - 4
兵庫県の取り組みについて	5 - 6
企業・事業所と地域とのつながりについて	6 - 7
従業員の社会参加等に関して	7 - 8
採用・雇用について	8 - 10
提言	11 - 12
自由記述意見(資料編)	13
実施調査票(資料編)	14 - 18

県内企業・事業所の青少年の健全育成に関する意識調査

2014 年度

はじめに

青少年にかかわる課題が山積しています。従来より学校・地域・家庭が連携し、子どもを守り育てる環境づくりが求められてきましたが、都市化、過疎化の進行による地域の教育力の低下と、家庭における教育力が低下し、連携は描かれた姿のみが残り、実態化されていません。

そこで、兵庫県青少年団体連絡協議会ではこうした状況から一步でも踏み出す試みとして、私たち団体に何ができるのかをテーマに「子どもの頃の体験が大人になってどのような影響を及ぼすか」さらに「青少年団体活動に子どもを参加させている親の意識調査」の調査研究活動を行い、その結果をもとに社会や団体に提言してきました。

この度は、人々の生活につながる各種企業・事業所を対象に、青少年の育成、またその環境としての地域づくりに関してどのように考え、また支援活動等を行っているのかについて調査しました。

この調査をもとに、これからの青少年団体活動の推進に向けて、どうすれば企業・事業所の理解を得ることが出来るのか、また青少年の育成に向けて、具体的な取り組みをどう進めたら良いのかを検討し、青少年団体はもとより、社会や企業・事業所に向けての提言を行うものです。

この調査研究活動は、公益財団法人兵庫県青少年本部よりの研究事業助成や支援を受けて実施されました。心より感謝申し上げます。

2015年3月 兵庫県青少年団体連絡協議会

【兵庫県青少年団体連絡協議会 調査研究委員会】

兵庫県内の事業所が子ども・若者の育成や社会貢献活動などに対し、どのような取り組みや考えを持っているのかを研究するために、アンケート調査を実施することとした。

調査テーマの検討・作成、調査の実施さらにはデータ分析等を集中的に進めるために、調査研究委員会をスタートさせた。

アンケート対象事業所については、(公財)兵庫県青少年本部が実施する「子ども若者応援団」「ひょうご青少年社会貢献認定制度」等に関し、賛同、登録していただいている事業所をはじめ、(公社)日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック加盟の企業・事業所、さらには兵庫県経営者協会に加盟の企業・事業所等から無作為にサンプルした対象で実施した。

そうした方法にて抽出した県下事業所 345 社に対し、調査票(無記名回答)を返信用封筒とともに郵送。その結果、121 社より回答を受けた。回収率は 35%だった。これによって得られたデータに基づいて今回の分析を試み、委員会としての提言をまとめた。

□ 今回、調査対象となった企業・事業所の概要(フェイスシート)については以下の通りである。

(1) 事業所の県下所在地 () 内は実数

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| ・神戸 47% (57) | ・阪神 12% (14) | ・東播磨 23% (28) |
| ・西播磨 9% (11) | ・北播磨 2% (2) | ・但馬 4% (5) |
| ・丹波 2% (3) | ・淡路 0% | ・その他 1% (1) |

(2) 事業所の業種

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| ・建設 12% (14) | ・製造 42% (51) | ・飲食宿泊 2% (2) | ・小売・卸売 17% (21) |
| ・運輸旅行 7% (9) | ・医療福祉 1% (1) | ・情報 2% (2) | ・サービス 12% (15) |
| ・教育学習 1% (1) | ・各種団体 4% (5) | | |

(3) 回答者の勤務先

- | | | |
|-----------------|----------------------|-------------------|
| ・本社で勤務 79% (96) | ・支社及び出張所で勤務 13% (16) | ・単体事業所にて勤務 6% (7) |
| ・無回答 2% (2) | | |

(4) 従業員数

- | | | |
|----------------------|--------------------|---------------------|
| ・1~10名以内 8% (10) | ・10~50名以内 21% (25) | ・50~100名以内 14% (17) |
| ・100~500名以内 36% (44) | ・500名以上 21% (25) | |

(5) 回答者

- | | |
|---------------|--------------|
| ・男性 85% (103) | ・女性 15% (18) |
|---------------|--------------|

(6) 回答者の年齢

- | | | |
|------------------|----------------|----------------|
| ・20歳代 2% (3) | ・30歳代 21% (26) | ・40歳代 27% (33) |
| ・50歳代以上 49% (58) | ・無回答 1% (1) | |

1. 企業のCSR（社会貢献）活動について

【問1】会社組織として取り組むボランティア活動や寄附・募金活動などの「社会貢献活動」を行っていますか。（回答は1つ）

事業所として社会貢献活動に「現在取り組んでいる」所は70%あり、「過去に取り組んだことがある」と合わせると81%となっている。近年、企業の社会貢献活動が企業イメージのアップや様々なプラスの要素をもたらすという動きが定着してきているものと思われる。

① 現在行っている（問1-2・問1-3へお進みください）	85件	70%
② 過去に取り組んだことがある（問1-4へお進みください）	13件	11%
③ ない（問1-5へお進みください）	19件	16%
無回答	4件	3%

【問1-2】「問1で①現在行っている」に○を付けた企業・事業所の方へ。行っている社会貢献活動の内容についてお尋ねします。（複数回答可）

社会貢献の内容は環境ボランティア、森林保全活動などの「環境分野」と、トライやるウィークへの協力などの「産業・労働分野」が58%と高く、次いで地域の防犯活動や被災地支援などの「安全・安心分野」が49%と高かった。青少年団体や学校行事への支援・協力などの教育・子育て分野も46%と高く、総じて突出した分野もなく、特に低いのは「文化芸術分野」だけで、おそらく具体的には様々な活動が広くなされているようである。

①環境分野（例：環境ボランティア、森林保全活動、省エネ活動への協力等）	49件	58%
②安全・安心分野（例：行政との災害協定、地域の防犯活動への協力、被災地支援等）	42件	49%
③産業・労働分野（例：インターンシップの受入、トライやる・ウィークへの協力等）	49件	58%
④健康・福祉分野（例：社会福祉施設等への支援や寄附等）	32件	38%
⑤教育・子育て分野（例：青少年団体、学校行事への支援・協力、指導者派遣等）	39件	46%
⑥文化芸術分野（例：作品展示会場の提供、コンサートの開催・支援等）	18件	21%
⑦その他（例：NPOとの協働・支援、地域イベントへの参加等）	35件	41%

*その他・記述欄：「地元の祭りに出店」「ソフトボール大会の実施」「海外青年協力隊へ派遣」等

【問1-3】「問1で①現在行っている」に○を付けた企業・事業所の方へ。

活動の取り組みにより、どのような効果、成果を期待しますか（2つまで選択）。

現在社会貢献活動を実施している企業・事業所の効果や成果への期待は、地域社会との共存やコミュニケーションが最も多く88%となっている。次いで、企業価値や企業ブランドの向上が52%、従業員のモラル向上22%と続いている。多くの企業が地域とのつながりや企業ブランドの向上に大きな期待を寄せていることが窺える。

① 企業価値や企業ブランドの向上	44件	52%
② 地域社会との共存やコミュニケーション	75件	88%
③ 従業員のモラル向上	19件	22%
④ 事業所自身の活性化	13件	15%
⑤ 新たな市場開拓	4件	5%
⑥ その他（ ）	0件	0%

【問 1-4】「問 1 で②過去に取り組んだことがある」に○を付けた企業・事業所の方へ。

現在行っていない理由（2つまで選択）。

回答数が少ないために評価するのが難しいが、過去に取り組んだが、現在行っていない事業所の理由は活動に一定の成果を得た、事業所として行う目的や意義が薄くなったと答えている。当初のねらいと現実との違いを感じ、これ以上の推進に躊躇した状況といえるかもしれない。

① 業務が忙しくなり取り組む時間がなくなった	2 件	15%
② 経済的な余裕がなくなった	1 件	8%
③ 従業員の理解や協力が得られにくくなった	0 件	0%
④ 活動に限界を感じた	1 件	8%
⑤ 活動に一定の成果を得た	3 件	23%
⑥ 事業所として行う目的や意義が薄くなった	3 件	23%
⑦ その他（ ）	4 件	31%

*その他・記述欄：「近年は検討も行えていない」

【問 1-5】「問 1 で③ない」に○を付けた企業・事業所の方へ。これまで取り組まなかった理由を 1 つ選択。

これも回答数が少なく評価しがたいが、社会貢献活動に取り組んだことのない事業所は、「忙しくて時間や人が割けない」、「社会貢献を行う機会や場が見つからない」、「社会貢献に関する知識やノウハウがない」と答えている。社会貢献の場は多くあるのではないかと思うが、企業からの働きかけや動きがどの程度行なわれているのかは不明である。

① 忙しくて時間や人手が割けない	5 件	26%
② 経済的な余裕がない	2 件	11%
③ 社会貢献を行う機会や場が見つからない	5 件	25%
④ 社会貢献に関する知識やノウハウがない	3 件	16%
⑤ 特に関心や興味がない	2 件	11%
⑥ その他（ ）	0 件	0%
無回答	2 件	11%

【問 2】社会貢献活動に取り組む上で、どのような課題がありますか（ありましたか）。

社会貢献活動に取り組む上での課題は、「従業員の協力や積極的な参加」が 46%、「担当部署などの推進体制の整備」31%、「自社に合った活動を探すこと」27%、「活動について相談、協力できる行政や団体との関係や連携」21%、「コスト負担が大きい」17%の順になっている。人的余裕がない中で社会貢献活動を進めるためには、ボランティアな従業員の意識改革が必要だということであろう。また、従業員を組織的に動かす組織整備も必要だということである。本調査に回答した担当者が現場の反応を非常に意識していることも窺える。社会貢献活動が「ボランティア」なのか「業務」なのかの明確な位置付けが現場では求められていて、それに対応できない企業及び担当者の苦渋が窺い知れる。また、自社に合った活動を探すことも重要なファクターで、財務的、人的余裕のある企業は、一般的な社会問題や地域の課題というよりもブランド向上のために自社に合った活動を探すことが大きな課題であろう。

① 社内および株主等の合意形成	15 件	12%
② 担当部署などの推進体制の整備	38 件	31%
③ 活動について相談、協力できる行政や団体との関係や連携	25 件	21%
④ 従業員の協力や積極的な参加	56 件	46%
⑤ コストの負担が大きい	20 件	17%
⑥ 自社に合った活動を探すこと	33 件	27%
⑦ その他（ ）	3 件	2%

2. 兵庫県の取り組みについて

【問 3】兵庫県では、中学生が事業所や地域のお店等で数日間にわたって勤労体験する「トライやる・ウィーク事業」が実施されていますが、その目的や内容について1つ選択。

トライやる・ウィーク事業は、兵庫県が、中学生に働く場を見せて学習させようとする趣旨から、県内の中学2年生を対象として1998年度から実施されている職場体験である。

実施から17年目を迎え、県内企業へは、ほぼ定着（受け入れ含む）していることが数値からも読み取ることができる。

「理解している」75%、「知っているが、内容までは理解していない」10%を含め85%の企業が事業を認識している。また、[問1]で社会貢献活動を過去または現在取り組んでいる事業所、合計81%だけを見ると、このトライやる・ウィーク事業を「理解している」が78%、「知っているが、内容までは理解していない」が11%となり、合計89%とやや増えていることがわかる。そうした事業所が「トライやる・ウィーク事業」について、より高い関心を持ち、協力していることが判る。

しかしながら、その一方で14%が知らないと答えているのも気がかりなところである。教育現場と企業・事業所との感覚の乖離も、まだまだあるのではないかと感じさせられる。

① 理解している	91 件	75%
② 知っているが、内容までは理解していない	12 件	10%
③ 知らない	17 件	14%
無回答	1 件	1%

◆トライやる・ウィーク(用語説明) 【<http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/tryyaru/tryyaru1.htm>】

中学校での「生きる力」を育成するとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって心の教育の充実を図るため、公立中学校（中等教育学校前期課程、市立特別支援学校中学部を含む）2年生が、1週間行方、地域や自然の中での様々な社会体験活動。

【問 4】公益財団法人兵庫県青少年本部では、企業から物資や資金等の提供を受け、青少年団体やNPO団体を支援する「ひょうご子ども若者応援団事業」が企業・事業所の協力で実施されていますが、その目的や内容についてお尋ねします。

認知度は、「理解している」と回答した企業・事業所は22%、「知っているが、内容までは理解していない」28%で、合計50%とトライやる・ウィーク事業と比較すると、まだまだ企業・事業所への制度の周知や定着は十分ではないように思われる。

アンケート結果では、認知度50%であるが「ひょうご子ども若者応援団」は2009年、登録企業30社から始まり2014年度(2015年2月現在)には457件(企業、団体・個人含む)となっている。実施から6年が経過し、協力を得られる企業、団体、個人は徐々に増加傾向となっている。

① 理解している	27 件	22%
② 知っているが、内容までは理解していない	34 件	28%
③ 知らない	60 件	50%

◆ひょうご子ども若者応援団(用語説明) 【<http://www.seishonen.or.jp/business/group/>】

(公財)兵庫県青少年本部では、県内初となる公益財団法人への移行を機に、団体・グループが行う青少年育成活動を支える新しい仕組みとして、「ひょうご子ども・若者応援団」を創設しました。応援団は、企業や団体、個人の皆さまから託された資金を基に、地域の民間団体やグループの活動を助成し、その運営基盤の安定化と活動の活性化を図ろうとするものです。

【問 5】上記の取組みや高校生や大学生の「福祉体験活動・インターンシップ事業」等青少年の社会体験、勤労体験活動について、企業・事業所がどのようにお考えですか。（1つ選択）

「福祉体験活動・インターンシップ事業」等青少年の社会体験、勤労体験活動について、好意的な回答を上位から並べ替えると「青少年の職業体験は貴重であり協力したい」24%、「可能な協力、受け入れ等が出来ないか今後検討してみる」16%、「事業所の近隣や地域ならば協力できる」11%、「事業所をアピールする上では効果的」6%で、その合計は57%である。受け入れる側の企業・事業所にとっては、積極的に受け入れるための環境が十分では無いようにも見受けられる。さらに、「関心はあるが、当事業所では対応できない（業種として難しい）」が32%となっているが、それらの事業所の内容を見てみると、特定の業種に偏っている状況ではないようだった。いずれにしても事業領域に即した事例提供などの促進活動も必要ではないだろうか。

① 事業所をアピールする上では効果的	7 件	6%
② 青少年の職業体験は貴重であり協力したい	29 件	24%
③ 事業所の近隣や地域ならば協力できる	13 件	11%
④ 関心はあるが、当事業所では対応できない（業種として難しい）	40 件	32%
⑤ 可能な協力、受け入れ等が出来ないか今後検討してみる	19 件	16%
⑥ 特に関心がない（協力できないと思う）	8 件	7%
⑦ その他（ ）	4 件	3%
無回答	1 件	1%

*その他・記述欄：「可能な協力はしている」「中学生までで実施」「大学生対象で実施」等

◆福祉体験活動・インターンシップ事業(用語説明)【<http://www.hyogo-c.ed.jp/~koko-bo/chiikikouken/index.html>】
高校生地域貢献事業トライやる・ワーク

全県立高等学校の1年生を中心とした、クラス単位によるボランティア活動、グループ単位による福祉活動等、学校独自の企画や複数校の共同企画による活動を支援する。

高校生就業体験事業

全県立高等学校2年生を中心に、将来めざす職業にかかわる職場や地域の企業等におけるインターンシップを実施し、望ましい勤労観、職業観を育成する。

3. 企業・事業所と地域とのつながりについて

【問 6】企業・事業所は事業所のある地域、そのつながりのある活動を知っていますか。（知っているものに○）

「伝統イベント、お祭り」が62%、次いで「防犯活動」43%、「環境・美化・省エネ活動」40%の順になっており、従来からの活動が事業所のある地域で知っている活動の上位を占めている。「子どもを対象とした活動」25%や「地域福祉活動（高齢者、障害者等の支援活動）」22%は余り知られていない。

① 子どもを対象とした活動（具体的に ）	30 件	25%
② 若者を対象とした活動（具体的に ）	13 件	11%
③ 防犯活動	52 件	43%
④ 地域福祉活動（高齢者、障害者等の支援活動）	27 件	22%
⑤ 伝統イベント、お祭り	75 件	62%
⑥ 環境・美化・省エネ活動	49 件	40%
⑦ 防災活動	35 件	29%
⑧ その他（ ）	2 件	2%

*その他・記述欄：「トライやる」「インターンシップ」「大学祭」「サッカー大会・ボイスカウト活動」等

【問 7】問 6 で○印をつけた活動で企業・事業所が何らかの形で支援しているもの全てに○印をつけて下さい。

企業・事業所が支援している活動は「伝統イベント、お祭り」48%、「環境・美化・省エネ活動」31%、「防犯活動」29%の順で、[問 6]と同様になっている。これは、従前からの活動であり、お祭り等への寄付や地域の防犯協会に加入しているなどの状況もあるのではないかと。「子どもを対象とした活動」19%、「地域福祉活動（高齢者、障害者等の支援活動）」19%、「防災活動」18%、「若者を対象とした活動」11%とこれらの支援に対する意識はさほど高くないと言えるのかもしれない。

① 子どもを対象とした活動（具体的に	23 件	19%
② 若者を対象とした活動（具体的に	13 件	11%
③ 防犯活動	35 件	29%
④ 地域福祉活動（高齢者、障害者等の支援活動）	23 件	19%
⑤ 伝統イベント、お祭り	58 件	48%
⑥ 環境・美化・省エネ活動	38 件	31%
⑦ 防災活動	22 件	18%
⑧ その他（	1 件	1%

*その他・記述欄：「トライやる」「こども 110 番」「季節行事」「スポーツ指導」「広告協賛」等

【問 8】今後地域の青少年育成に何らかの関わりを持とうとお考えですか。1 つお選び下さい。

「今まで通りの取り組みを行う」と 45%が答えており、「わからない」も 27%となっている。あまり大きな変化は予想されない状況である。「新たな取り組みを考えたい」も 12%あり、従来型でない活動を期待したい。

① 今まで通りの取り組みを行う	53 件	45%
② 新たな取り組みを考えたい	15 件	12%
③ わからない	33 件	27%
④ 予定はない	17 件	14%
無回答	3 件	2%

4. 従業員の社会参加等に関して

【問 9】従業員が地域活動にボランティアとして参加することを支援する制度がありますか。

「ない」が 79%となっている。これは、先の調査項目からも分かるように、企業がその地域での社会貢献意識が低いということには必ずしもならないであろう。また、「ボランティア」の必要性和制度的にいかに対応すべきかを企業としてどう考えているかは今回の調査では明らかになっていない。

① ある（あるとお答えいただいた事業所の方は問 9-2 にお進みください）	24 件	20%
② ない	96 件	79%
無回答	1 件	1%

【問 9-2】地域活動に参加を支援する制度の内容についてお答えください。（複数回答可）

[問 9]で「ある」と答えた企業・事業所は 20%あるがその内容は「休暇制度」が 16 件、「費用助成制度」5 件となっている。

① 休暇制度（制度名か内容：	16 件
② 費用助成制度（制度名か内容：	5 件
③ その他（制度名か内容：	5 件

*その他・記述欄：「休日活動手当」「VO.保険」「交通費支給」等

【問 10-1】 従業員研修に地域での活動や体験を取り入れていますか。

【問 10-2】 その内容についてお答えください。(複数回答可)

90%の事業所が「取り入れていない」としている。また「取り入れている」企業・事業所は少なく、件数も限られるため傾向が見えないが、実施されている社会貢献活動は「環境・美化」と「防犯」、「地域福祉活動」となっており、地域で企業が対応しているのは、従前の活動の範囲内のものが主となっている。

①取り入れている(お答えいただいた事業所の方は問 10-2 にお進みください)	11 件	9%
②取り入れていない	109 件	90%
無回答	1 件	1%

① 子どもを対象とした活動(具体的に)	2 件	18%
② 若者を対象とした活動 (具体的に)	1 件	9%
③ 防犯活動	4 件	36%
④ 地域福祉活動(高齢者、障害者等の支援活動)	4 件	36%
⑤ 伝統イベント、お祭り	3 件	27%
⑥ 環境・美化・省エネ活動	8 件	73%
⑦ 防災活動	2 件	18%
⑧ その他 ()	2 件	18%

*その他・記述欄:「障害者移送サービス」「本社周辺の清掃」

5. 採用・雇用について

【問 11】 若者の採用時に重視したい資質や能力について、次の中から3つ以内で選んで下さい。

職場が採用時に若者たちに求める資質や能力の第一位は「物事に自ら進んで取り組む」64%、「秩序やルール、人との約束を守る」48%、続いて「色々な人と協調できたり和やかに過ごせる」39%、「自分の意見をきちんと発信する」24%の順となった。これらの多くは、多様な人たちとともに目標、目的に向けて協力、行動する力であり、それに対して積極的、主体的に行動を起こすことへの期待が強く込められている。

経済産業省は有識者会議の提唱(平成18年)を受け、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を「社会的基礎力」と表現し、次にあげる3つの能力で構成されるとした。その内容は「前に踏み出す力(アクション)」、「考え抜く力(シンキング)」そして「チームで働く力(チームワーク)」である。その3つの能力はさらに12の能力の要素で構成されているとし、それが本設問の12の選択肢である。

① 物事に自ら進んで取り組む	78 件	64%
② 目的を設定し確実に行動する	27 件	22%
③ 過程を組み立てプロセスを作る	7 件	6%
④ 自分の意見をきちんと発信する	29 件	24%
⑤ 意見や立場の違いを認識理解する	9 件	7%
⑥ 秩序やルール、人との約束を守る	58 件	48%
⑦ 他人に働きかけ、関係性を積極的に作る	26 件	21%
⑧ 現状を分析、課題を見つけようとする	15 件	12%
⑨ 経験に囚われない新しい価値を生み出す	13 件	11%
⑩ 人の話、意見を丁寧に聞く	21 件	17%
⑪ 色々な人と協調できたり和やかに過ごせる	47 件	39%
⑫ 不安、緊張、ストレスに対処、対応できる	16 件	13%

【問 12】就職時までには若者の社会人資質はどの程度出来ていると思いますか

「できていない」10%、「あまりできていない」59%の合計で約70%、一方「かなりできている」と「できている」は合計で25%となっている。採用する側は今日の若者たちに対して結構厳しい見方をしており、前問の「重視したい資質」についてはあまりクリアされていないという評価を持っていると考えられる。その具体的な内容については次の質問で明らかになっている。

① できている	4 件	3%
② かなりできている	27 件	22%
③ あまりできていない	71 件	59%
④ できていない	12 件	10%
⑤ その他	1 件	1%
無回答	6 件	5%

【問 13】今日の若者たちに不足している資質、能力について、特に気になるものを3つ以内で選択。

[問 11]と対比させるため、選択肢は同様のものを用いている。ここでも第一位は「物事に自ら進んで取り組む」56%となっており、[問 11]で一番期待・重視しているもの自身が実は備わっていない、との実感があることが明らかになった。以下続いて「不安、緊張、ストレスに対処、対応できる」が40%、「他人に働きかけ、関係性を積極的に作る」が30%、「秩序やルール、人との約束を守る」24%、が不足していることの上位となっている。ここでは「アクション」のポイントが概して高くなっており、今日の若者にはもっと積極性や行動力が必要との思いのようである。また、採用時の関心にはあまり高く挙げられていなかった「不安、緊張、ストレスへの対処、対応」がかなり高くなっている。採用後の職場生活への不適應の実際や懸念があるのではないだろうか。

一方、「色々な人と協調できたり和やかに過ごせる」や「経験に囚われない新しい価値を生み出す」については、[問 11]ではそれぞれ39%、11%だったものが、ここでは15%、6%に減っている。これは、これらの点については、求める高さに対して懸念が低いことを示し、今日の若者たちは、一般的に能力、資質としてこれらの点はある程度持っていると考えているのではないかと考えられる。

① 物事に自ら進んで取り組む	68 件	56%
② 目的を設定し確実に行動する	15 件	12%
③ 過程を組み立てプロセスを作る	8 件	7%
④ 自分の意見をきちんと発信する	25 件	21%
⑤ 意見や立場の違いを認識理解する	21 件	17%
⑥ 秩序やルール、人との約束を守る	29 件	24%
⑦ 他人に働きかけ、関係性を積極的に作る	36 件	30%
⑧ 現状を分析、課題を見つけようとする	18 件	15%
⑨ 経験に囚われない新しい価値を生み出す	7 件	6%
⑩ 人の話、意見を丁寧に聞く	21 件	17%
⑪ 色々な人と協調できたり和やかに過ごせる	18 件	15%
⑫ 不安、緊張、ストレスに対処、対応できる	49 件	40%

【問 14】採用時に、地域活動や青少年活動、またボランティア活動等に一定期間以上、参加した経験や実績があることを積極的に評価しますか。

「はい」65%、「いいえ」17%、「その他」15%、の数値からすると「積極的に評価する」企業・事業所が多いことが分かる。ここでは具体的にどのような経験や能力に着目し、重要視しているのかについては明確ではないが、上記の「社会人基礎力」に大いに関係していると考えられる。「アクション」、「シンキング」、「チームワーク」の能力が具体的な場面で要求されるこうした青少年期の活動体験は大いに評価されるべきだとも考える。しかしながら、一般的に青少年活動とは何か、一体どこまで理解されているのかについては漠然としており不明である。さらに「その他」の記載理由には「参考にはするが何を学びどう生かすかが課題」「あくまで参考程度」「評価はするが決め手ではない」等があり、評価する思いを持ちつつも、採用ポイントとなるかについては慎重であり、参加体験だけでなく、何を学びその後どう発揮し、生かされたのかへの関心が強いことが見受けられた。さらに「活動を理解すれば評価する」との記述もあり、青少年活動の何を理解してもらうのか、それをどう進め、さらにどう広めていくのかについても検討や検証が必要だろう。

① はい	78 件	65%
② いいえ	21 件	17%
③ その他 (理由:)	18 件	15%
無回答	4 件	3%

*その他・記述欄：あとの資料編に記載

【問 15】地域活動や青少年活動等の経験のある従業員はその経験が仕事に生かされていると思いますか。

「思う」59%、「思わない」6%、「わからない」34%。前問の「経験を評価する」の65%に近い59%が生かされているとの認識を受けていることは率直に安堵するところである。これらの経験がそれなりに有意義なものであるとも認められているということだろう。

しかしその一方で、「わからない」も決して低くはなく、活動経験がどんなことに生かされているか、それはその経験が反映してのことか、となると断定はしかねるということだろう。また、違う観点からすると、今日の職場では、一人一人の従業員が過去や現在、青少年活動に関わっていたかどうかの情報はもとより、互いのそうした個人的な経緯や背景について、関心を持ち合わないということも珍しい事ではなくその結果、承知していないという事もあるのかもしれない。

①思う	72 件	59%
②思わない	6 件	5%
③わからない	41 件	34%
無回答	2 件	2%

【問 16】若手社員の人材育成で、女性が能力を発揮しやすくなるような工夫を取り入れていますか。

「はい」21%、「いいえ」70%、無回答が9%、となっており、特にそうした対応を取っていないという事業所が多かった。その内容についての記述には、「資格進級制度」や「女性だけのプロジェクトチーム」、「リーダー制度・管理職登用」、「育児支援」、「育児休暇制度」さらには「女性躍進委員会」等もあり、各企業・事業所ならではの取り組みや制度が見られた。また、「特に男女分け隔てない」といった内容も多く見られた。取り組んでいる事業所とそうでないところの差異が結構あるのではないかというのが率直な実感である。

① はい (その内容をお書き下さい)	26 件	21%
② いいえ	84 件	70%
無回答	11 件	9%

*その他・記述欄：あとの資料編に記載

〈提 言〉

今回の調査研究活動から、委員会では次の提言をまとめた

1. 青少年活動の大きな成果、「社会人生活をスタートさせる若者たちの基本資質が育つ」ことを広く社会にアピールしよう。

家庭、地域から社会へ、そして次なる新しいライフステージへと向かっていく若者たち。そうした彼らに求められる能力や資質、その多くは青少年活動で経験する自然体験活動や社会体験活動、さらにはグループ活動の機会を通して実践的に学習される。今日、家庭や学校ではなかなか学習する機会の少ない体験活動としての青少年活動は、むしろその必要性が高まっていると言え、より積極的に推進されなければならない。

青少年の自主性、主体性そして仲間との関係性や相互性を通して体験的に学ぶ青少年活動、それは本来、彼ら自身の成長と幸福を目指すためのものである。青少年団体やその活動の実践者である育成者、指導者は今一度このことを強く認識し、青少年の将来とともに、彼らを通して明日の社会を担う自覚を持って活動に取り組むべきである。そのためには活動そのもの以上に、そのねらいや目的を明らかにし、その成果について常に家庭や社会に向けて発信、アピールすることを怠るべきではない。

2. 青少年団体は社会のニーズを常に考慮しながら活動に取り組もう。

今回の調査は、青少年団体が企業・事業所に対して行なうアプローチとしては初めての試みで、事業所等が地域や青少年、またその育成活動に対してどのような関心を持っているかの一端を知ることが出来た。その中で企業・事業所から期待される若者たちの資質も明らかにされた。その資質とは、秩序やルールを弁えながら、物事に積極的に取り組むこと、そして適応性を持ち、良好な人間関係が作れることなどの指摘である。活動のニーズは当事者としての青少年自身に当然のことながらあるが、社会そのものにもそれは大きく存在することを忘れてはならない。また、青少年活動の成果はかけがえなく大きなものがあるが、それは常に可能性としてあるのであり、それを左右する最大の要因は指導者のあり方や能力である。指導者、育成者は青少年のそれぞれの成長期における肉体的、精神的さらには社会的な発達課題を考慮し、それに応じた活動を行うが、時には社会の代弁者としての立場も持ちながら、社会のニーズを的確にとらえ、広い視野をもって活動に携わる必要がある。

3. 青少年団体は活動を通じて、成長する青少年の姿をしっかりとらえよう。

青少年にとって、青少年活動はやるべき活動というよりは、やりたい活動であり、またそうあるべきである。多様なプログラムやリーダーシップがそこにあり、自らもまた指導者として仲間と関わる機会を持つのである。時に学校以上の学びがあり、家庭以上の寛ぎがそこに存在することもある。彼らにとって居場所ともなるこうした活動の機会で育まれるものは、楽しみや課題を共有したグループ活動やチームワークの実際によるものである。

そこで、活動を通じて一人ひとりの青少年の成長や変化を長時間かけて、しっかりと記録し、その成果を広く社会に伝えることが大切である。特に子どもの場合は、活動記録で身体や心の変化をとらえることや定点観察をすることで得たことを踏まえ、青少年団体活動が人格形成につながる有効性を家庭と共有することが必要である。

4. 企業・事業所の理解と協力を得て、さらに青少年活動の輪を広げよう。

青少年活動や地域活動への参加は、就職期までに限定されるのではない。活動の推進には、多様な年代層の指導者、育成者そして協力者がいることが極めて重要である。社会人となって、携わる事は決して簡単なことではないが、事業所や職場がこうした取り組みや、それを支援する制度を持っていたり、関心の高い土壌があると継続する事が出来やすくなるのではないだろうか。事業内容にも依るが、少ない件数ながら、事業所内の研修や活動に取り入れているという事例も見られた。潜在的にも関心のある企業・事業所もあった。青少年期のこうした活動によって育まれる資質は、社会人生活を進めるうえで、かなり有意なものであることが確認された。このことだけでも企業・事業所が参画する社会貢献の一つとして青少年活動に関心や関わりを持つことが、十分に意味あることを示していると言えないだろうか。青少年団体としても、今後こうしたことを意識し、具体的な働きかけを継続的にやっていく必要がある。

5. 青団連や青少年本部、また行政(教育委員会)、そして企業・事業所等の連携・協力を深め、社会貢献活動に取り組みやすい環境をつくろう。

- ・23の青少年団体で構成する兵庫県青少年団体連絡協議会は、企業・事業所、関係団体、行政や教育委員会、地域社会と定期的に懇談するなど、青少年団体が日常の活動で培った成果を広く社会に広報することが大切である。またその機会は新たなニーズや課題を知る機会ともなる。具体的には、ホームページでの活動の報告、また「ひょうご若者応援団」などで協力された企業・事業所、関係団体などと定期的な報告会や懇談会をもつことなどが考えられる。
- ・本部や兵庫県青少年団体連絡協議会に日常的に、企業・事業所と連携を深めるためのチャンネルやツールを確保し、青少年育成や地域づくり等の社会貢献活動に関する情報提供やその成果が広く社会に認知される機能が持てるようにする。具体的には、相談窓口の設置や相談員の派遣、また、社会貢献に関する一部事業の協力や受託などの取り組みが出来る体制づくりが考えられる。
- ・広く青少年活動、体験活動の経験を持つ若者が、その評価や期待を受けるとともに、就職後も社会と関わることのできる環境整備が求められている。「ひょうご青少年社会貢献活動認定制度」は企業・事業所が従業員採用の際に、青少年活動や社会貢献活動の経験を積極評価する制度だが、具体的な成果を伴ってより広く定着していく方策がさらに必要である。また、そうした人材も生かしながら、より良い社会の構築のために、地域団体や青少年団体と協力し、従業員が共に汗を流し学ぶことのできる活動も考えられる。また「トライやる・ウィーク」、「福祉体験活動・インターンシップ事業」などの制度や仕組みを生かし、受け入れながら、事業所としてまた従業員が地域と関わる機会を作り出すことも考えられる。一方で、これらの実施に向けて、必ずしも情報が現場には十分周知されていない状況も、改善していく必要がある。

2014年度 兵庫県青少年団体連絡協議会 調査研究委員会委員（順不同・敬称略）

磯 辺 康 子	神戸新聞社編集局社会部デスク
草 薙 信 久	兵庫県経営者協会専務理事
千 住 啓 介	日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会 2014 年度副会長
新 庄 和 文	兵庫県青年洋上大学同窓会事務局長
速 水 順 一 郎	兵庫県青少年団体連絡協議会会長
清 水 勲 夫	兵庫県青少年団体連絡協議会副会長（野外活動協会専務理事）
水 野 雄 二	兵庫県青少年団体連絡協議会副会長（神戸 YMCA 総主事）

[資料編] 自由記述意見

(問1-2) ⑦現在行っている社会貢献活動の内容

- ・H食品を通じて支援
- ・ソフトボール大会主催・地元の祭りに出店
- ・B国友好協会事務局
- ・事業として青年海外協力隊
- ・シニアボランティア行っている

(問1-4) ⑦現在行っていない理由

- ・近年は検討も行えてない

(問2) ⑦社会貢献活動に取り組む上での課題

- ・活動主体を生協組合員として自発的に推進すること

(問5) ⑦「福祉体験・インターンシップ事業」等への考え、対応

- ・大学生対象実施
- ・可能な協力
- ・協力している
- ・中学校のトライアルウィーク以外やってないがさらに広げるには受入体制がむずかしい

(問6) ①事業所のある地域での知っている地域活動（子ども対象）

- ・トライやる
- ・見守り活動
- ・トライやる
- ・イベント出展
- ・サッカー大会
- ・ボーイスカウト
- ・トライやる・こども110番
- ・バザー
- ・明石オレンジリボンキャンペーン2014
- ・工場見学
- ・播磨町面白教室支援
- ・絵画展
- ・子ども神輿・寺子屋

(問6) ②事業所のある地域での知っている地域活動（若者対象）

- ・吹奏楽
- ・播磨町面白教室支援
- ・大学祭
- ・インターンシップ
- ・スポーツクラブのユース支援
- ・明石オレンジリボンキャンペーン2014
- ・インターンシップ
- ・出張講座開催

(問6) ⑧事業所のある地域での知っている地域活動（その他）

- ・コミュニティ活動・交通安全推進活動
- ・クリーン作戦

(問7) ①支援している地域活動（子ども対象）

- ・トライやる4件
- ・こども110番
- ・サッカー大会・ボーイスカウト等への助成
- ・子育てサークル・学童保育・親子会習会
- ・広告協賛
- ・節分などの季節行事の協力

(問7) ②支援している地域活動（若者対象）

- ・吹奏楽等への助成
- ・スポーツを教える等の活動
- ・物品提供
- ・学生の地域活動への協力
- ・インターンシップ2件

(問7) ⑧支援している地域活動（その他）

- ・コミュニティ活動・交通安全推進活動等への助成
- ・V.O.体験
- ・V.O.休暇2件
- ・ドナー休暇
- ・ふれあい休暇
- ・積立年休取得可
- ・積立休暇
- ・出勤扱い
- ・福祉休暇制度
- ・公休扱い

(問9-2) 地域活動への参加を支援する制度や費用助成等（自由意見含）

- ・休日に活動は出勤手当の支給
- ・交通費支給
- ・V.O.保険
- ・V.O.活動推進奨励
- ・検討中

(問10-2) ⑧従業員研修に取り入れている地域活動や体験

- ・障害者移送サービス
- ・本社周辺／兵庫運河清掃

(問14) 採用時に青少年活動、地域活動、ボランティア活動等への一定期間以上参加の体験・実績を積極評価するか

- ・参考にはする2件
- ・経験や実績はあくまでに参考程度
- ・評価はするが決め手ではない
- ・予定なし
- ・内容による2件
- ・時と場合、またその経験から何を学びどう活かしていきたいかによる
- ・一定の評価はする
- ・主体性評価
- ・評価はする
- ・理解すれば
- ・評価ある程度評価
- ・特に意識した評価はしていない、問題は色々な景観を通してどうか重要
- ・そこで何を学びどのように生かすか
- ・何を吸収したか

(問16-2) 若手社員の人材育成で、女性が能力を発揮しやすいような工夫を取り入れているか

- ・男女とも関係ない
- ・資格進級制度
- ・女性が多い職場なので能力を発揮できる風土がある
- ・男女同一業務内容
- ・女性スタッフだけのプロジェクトチーム
- ・差別はない
- ・男女関係ない業務なので、男女同じように育成している
- ・女性向け研修会実施
- ・人間関係スムーズ配慮
- ・助成だけに限らずダイバーシティの推進
- ・育児支援
- ・男女同等であり仕事の内容に差別があってはならない
- ・リーダー制度
- ・管理職登用
- ・男性と平等な待遇
- ・女性職員研修実施
- ・育児休暇2件
- ・女性躍進委員会
- ・キャリアブランディング研修
- ・来春高卒女子を工事担当部門で採用しますので改めてよく考えてみたい
- ・営業職として採用する中男女関係なく大切な部分は共通しているため

(実施調査票)

【県内企業・事業所の青少年の健全育成に関する意識調査】
アンケート調査ご協力をお願い

兵庫県青少年団体連絡協議会（県内23青少年団体で構成）は公益財団法人兵庫県青少年本部より助成を受け、県内にある企業・事業所が、青少年の育成、またその環境としての地域づくり等に関してどのように考え、また支援活動等を行っておられるのかを調査することになりました。

この調査は、これからの青少年団体活動の推進に向けて、どうすれば企業・事業所の理解を得ることが出来るのか、また青少年の育成に向けて、具体的な取り組みをどう進めたら良いのかを検討することに役立たせていただきたく実施するものです。

今回、「ひようご青少年社会貢献活動認定制度」や「ひようご子ども・若者応援団」等に関係、ご協力を戴いている企業・事業所をはじめ一般の企業・事業所も対象としてアンケートをお願いしています。調査は無記名、また調査結果は統計的に処理しますので、お答えいただいた事業所に関する情報が個々に公表されることはありませんので、率直にご回答いただき、ご協力いただきます様をお願い申し上げます。

2014年10月 兵庫県青少年団体連絡協議会

【兵庫県青少年団体連絡協議会加盟団体 順不同】

兵庫県子ども会連合会	日本ボーイスカウト兵庫連盟
ガールスカウト兵庫県連盟	野外活動協会（OAA）
神戸YMCA	兵庫県青年洋上大学同窓会
兵庫県少林寺拳法連盟	兵庫県モラロジー青少年団体連絡協議会
兵庫県世界青年友の会	神戸YWCA
兵庫県ユースホステル協会	日本青年会議所近畿地区 兵庫ブロック協議会
兵庫県スポーツ少年団	神戸青年会議所
日本赤十字社兵庫県支部	兵庫県連合青年団
兵庫県BBS連盟	兵庫県青年国際交流機構
兵庫県商工会青年部連合会	神戸市少年団
神戸フットボールクラブ	兵庫県緑の少年団連盟
神戸国際支縁機構	

【この調査に関するお尋ね・お問い合わせは】

兵庫県青少年団体連絡協議会 事務局

〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3 兵庫県民会館8階

公益財団法人 兵庫県青少年本部 活動支援部 まで

☎078(891)7410

【ご記入にあたってのお願い】

- ・アンケートの趣旨等をご理解いただき、貴企業・事業所としてのお考えや思いをお聞かせ戴けるご担当者の方のご回答をお願い致します。
- ・回答は全て、設問箇所にご記入(選択肢番号に○)いただき、この用紙(2 枚)を同封の封筒にてご返送下さい。
- ・まことに勝手ながら、12月16日(火)までにご返送いただけましたら幸いです。

※フェイスシートの設問は【1】から【6】まで。

※アンケート設問は【問1】から【問16】まで全4ページです。

(フェイスシート) 貴企業・事業所の概要についてお伺いします。該当するものに○をつけて下さい。

【1】 所在地について、次の中から1つお答えください。

- | | | | | |
|---------|-------|--------|--------|--------|
| 1. 神戸市内 | 2. 阪神 | 3. 東播磨 | 4. 西播磨 | 5. 北播磨 |
| 6. 但馬 | 7. 丹波 | 8. 淡路 | | |

【2】 業種について、次の中から1つお答えください。当てはまるものがない場合は、最も近いと思われるものを選んで下さい。

- | | | | |
|------------------|-----------|--------------|-----------|
| 1. 建設業 | 2. 製造業 | 3. 飲食・宿泊業 | 4. 小売・卸売業 |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 6. 運輸・旅行業 | 7. 医療・福祉関係 | |
| 8. 情報産業 | 9. サービス業 | 10. 教育・学習支援業 | 11. 各種団体 |

【3】 お答えいただいている方の勤務先についてお尋ねします。

- | | | |
|----------|---------------|-------------|
| 1. 本社で勤務 | 2. 支社及び出張所で勤務 | 3. 単体事業所で勤務 |
|----------|---------------|-------------|

【4】 従業員数(正規職員、嘱託職員含む)についてお答えください。

- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 1. 1名~10名以内 | 2. 11名~50名以内 | 3. 51名~100名以内 |
| 4. 101名~500名以内 | 5. 501名以上 | |

【5】 お答えいただいている方の性別をお尋ねします。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

【6】 お答えいただいている方の年齢をお尋ねします。

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 | 4. 50歳以上 |
|---------|---------|---------|----------|

(アンケート設問)

1. 企業のCSR(社会貢献)活動について

【問1】 会社組織として取り組むボランティア活動や寄附・募金活動などの「社会貢献活動」を行っていますか。(回答は1つ)

- ① 現在行っている(問1-2・問1-3へお進みください)
- ② 過去に取り組んだことがある(問1-4へお進みください)
- ③ ない(問1-5へお進みください)

【問1-2】 「問1で①現在行っている」に○を付けた企業・事業所の方へ。

行っている社会貢献活動の内容についてお尋ねします。(複数回答可)

- ① 環境分野(例: 環境ボランティア、森林保全活動、省エネ活動への協力等)
- ② 安全・安心分野(例: 行政との災害協定、地域の防犯活動への協力、被災地支援等)
- ③ 産業・労働分野(例: インターンシップの受入、トライやる・ウィークへの協力等)
- ④ 健康・福祉分野(例: 社会福祉施設等への支援や寄附等)
- ⑤ 教育・子育て分野(例: 青少年団体、学校行事への支援・協力、指導者派遣等)
- ⑥ 文化芸術分野(例: 作品展示会場の提供、コンサートの開催・支援等)
- ⑦ その他(例: NPOとの協働・支援、地域イベントへの参加等)

(

)

【問 1-3】「問 1 で①現在行っている」に○を付けた企業・事業所の方へ。

活動の取り組みにより、どのような効果、成果を期待しますか(2つまでお選び下さい)。

- ① 企業価値や企業ブランドの向上
- ② 地域社会との共存やコミュニケーション
- ③ 従業員のモラル向上
- ④ 事業所自身の活性化
- ⑤ 新たな市場開拓
- ⑥ その他 ()

【問 1-4】「問 1 で②過去に取り組んだことがある」に○を付けた企業・事業所の方へ。

現在行っていない理由 (2つまでお選び下さい)。

- ① 業務が忙しくなり取り組む時間がなくなった
- ② 経済的な余裕がなくなった
- ③ 従業員の理解や協力が得られにくくなった
- ④ 活動に限界を感じた
- ⑤ 活動に一定の成果を得た
- ⑥ 事業所として行う目的や意義が薄くなった
- ⑦ その他 ()

【問 1-5】「問 1 で③ない」に○を付けた企業・事業所の方へ。これまで取り組まなかった理由を1つ選んで下さい。

- ① 忙しくて時間や人手が割けない
- ② 経済的な余裕がない
- ③ 社会貢献を行う機会や場が見つからない
- ④ 社会貢献に関する知識やノウハウがない
- ⑤ 特に関心や興味がない
- ⑥ その他 ()

【問 2】社会貢献活動に取り組む上で、どのような課題がありますか (ありましたか)。

(複数回答可)

- ① 社内および株主等の合意形成
- ② 担当部署などの推進体制の整備
- ③ 活動について相談、協力できる行政や団体との関係や連携
- ④ 従業員の協力や積極的な参加
- ⑤ コストの負担が大きい
- ⑥ 自社に合った活動を探すこと
- ⑦ その他 ()

2. 兵庫県の取り組みについて

【問 3】兵庫県では、中学生が事業所や地域のお店等で数日間にわたって勤労体験する「トライ・やるウィーク事業」が実施されていますが、その目的や内容についてお尋ねします。

- ① 理解している
- ② 知っているが、内容までは理解していない
- ③ 知らない

【問 4】公益財団法人兵庫県青少年本部では、企業から物資や資金等の提供を受け、青少年団体やNPO団体を支援する「ひょうご子ども若者応援団事業」が企業の協力で実施されていますが、その目的や内容についてお尋ねします。

- ① 理解している
- ② 知っているが、内容までは理解していない
- ③ 知らない

- ① 事業所をアピールする上では効果的
- ② 青少年の職業体験は貴重であり協力したい
- ③ 事業所の近隣や地域ならば協力できる
- ④ 関心はあるが、当事業所では対応できない（業種として難しい）
- ⑤ 可能な協力、受け入れ等が出来ないか今後検討してみる
- ⑥ 特に関心がない（協力できないと思う）
- ⑦ その他（ ）

- ① 子どもを対象とした活動（具体的に
- ② 若者を対象とした活動（具体的に
- ③ 防犯活動
- ④ 地域福祉活動（高齢者、障害者等の支援活動）
- ⑤ 伝統イベント、お祭り
- ⑥ 環境・美化・省エネ活動
- ⑦ 防災活動
- ⑧ その他（

- ① 子どもを対象とした活動（具体的に
- ② 若者を対象とした活動（具体的に
- ③ 防犯活動
- ④ 地域福祉活動（高齢者、障害者等の支援活動）
- ⑤ 伝統イベント、お祭り
- ⑥ 環境・美化・省エネ活動
- ⑦ 防災活動
- ⑧ その他（

- ① 今まで通りの取り組みを行う
- ② 新たな取り組みを考えたい
- ③ わからない
- ④ 予定はない

① ある（あるとお答えいただいた事業所の方は問 9-2 にお進みください）
② ない

① 休暇制度 (制度名か内容:)
② 費用助成制度 (制度名か内容:)
③ その他 (制度名か内容:)

【問 10】従業員研修に地域での活動や体験を取り入れていますか。

- ① 取り入れている(お答えいただいた事業所の方は問 10-2 にお進みください)
- ② 取り入っていない

【問 10-2】その内容についてお答えください。(複数回答可)

- ① 子どもを対象とした活動 (具体的に)
- ② 若者を対象とした活動 (具体的に)
- ③ 防犯活動
- ④ 地域福祉活動 (高齢者、障害者等の支援活動)
- ⑤ 伝統イベント、お祭り
- ⑥ 環境・美化・省エネ活動
- ⑦ 防災活動
- ⑧ その他 ()

5. 採用・雇用について

【問 11】若者の採用時に重視したい資質や能力について、次の中から3つ以内で選んで下さい。

- ① 物事に自ら進んで取り組む
- ② 目的を設定し確実に行動する
- ③ 過程を組み立てプロセスを作る
- ④ 自分の意見をきちんと発信する
- ⑤ 意見や立場の違いを認識理解する
- ⑥ 秩序やルール、人との約束を守る
- ⑦ 他人に働きかけ、関係性を積極的に作る
- ⑧ 現状を分析、課題を見つけようとする
- ⑨ 経験に囚われない新しい価値を生み出す
- ⑩ 人の話、意見を丁寧に聞く
- ⑪ 色々な人と協調できたり和やかに過ごせる
- ⑫ 不安、緊張、ストレスに対処、対応できる

【問 12】就職時まで若者の社会人資質はどの程度出来ていると思いますか。

- ① できている
- ② かなりできている
- ③ あまりできていない
- ④ できていない

【問 13】今日の若者たちに不足していると思われる資質、能力についてお尋ねします。特に気になるものを 次の中から3つ以内で選んで下さい。

- ① 物事に自ら進んで取り組む
- ② 目的を設定し確実に行動する
- ③ 過程を組み立てプロセスを作る
- ④ 自分の意見をきちんと発信する
- ⑤ 意見や立場の違いを認識理解する
- ⑥ 秩序やルール、人との約束を守る
- ⑦ 他人に働きかけ、関係性を積極的に作る
- ⑧ 現状を分析、課題を見つけようとする
- ⑨ 経験に囚われない新しい価値を生み出す
- ⑩ 人の話、意見を丁寧に聞く
- ⑪ 色々な人と協調できたり和やかに過ごせる
- ⑫ 不安、緊張、ストレスに対処、対応できる

【問 14】採用時に、地域活動や青少年活動、またボランティア活動等に一定期間以上、参加した経験や実績があることを積極的に評価しますか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ その他 ()

【問 15】地域活動や青少年活動等の経験のある従業員はその経験が仕事に生かされると思いますか。

- ① 思う
- ② 思わない
- ③ わからない

【問 16】若手社員の人材育成で、女性が能力を発揮しやすくなるような工夫を取り入れていますか。

- ① はい (その内容をお書き下さい:)
- ② いいえ

*アンケートにご協力いただき有難うございました

兵庫県青少年団体連絡協議会

〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4 丁目 16-3

兵庫県民会館 8 階

公益財団法人 兵庫県青少年本部 活動支援部 内

☎078(891)7410

